

勇払のハスカップ
共有、保全を論議

【苫小牧市】ハスカップが群生する勇払原野の環境を共有財産として保全する方法を模索するフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」が27日、苫小牧市内で開かれた。研究者らが国内外の参考事例などを紹介し、意見交換した。写真＝。

勇払原野の群生地は主に苫東の所有地だが、毎夏、ハスカップが実ると市民らが出入りしてハスカップ狩りを楽しんでいる。

参加した。勇払原野の群生地は主に苫東の所有地だが、毎夏、ハスカップが実ると市民らが出入りしてハスカップ狩りを楽しんでいる。

環境コモンズ研究会（座長・小磯修一、北大公共政策大学院特任教授）と、工業地帯の苫小牧東部地域で群生地保存に向けた活動をしているNPO法人苫東環境コモンズの主催で約60人が



「ハスカップの新たな共有と保全を考える」フォーラムの様子。左から、環境コモンズ研究会の座長・小磯修一、苫小牧市美術博物館の小玉愛子主任学芸員、苫東環境コモンズの草刈健事務局長、ふるさとのシンボルとして愛されてきたハスカップの歴史や、群生地での進む乾燥化の問題などを説明した。

来場者との意見交換では「一定のルールが必要」「ハスカップに携わる人々が横のつながりを持つべきだ」などの声が出た。

（荒井友香）

ハスカップ保全へ提言

苫小牧フォーラムで研究者ら

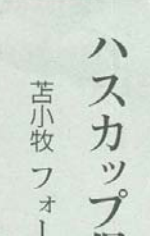
苫小牧市で27日に開かれたフォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

「ハスカップ自生地の共有ルールなどについて検討したフォーラム」

「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。



「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラムの様子。左から、環境コモンズ研究会の座長・小磯修一、苫小牧市美術博物館の小玉愛子主任学芸員、苫東環境コモンズの草刈健事務局長、ふるさとのシンボルとして愛されてきたハスカップの歴史や、群生地での進む乾燥化の問題などを説明した。

「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

「ハスカップ自生地の共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

ハスカップは人類の財産
地域で守る取り組み重要

環境コモンズフォーラム



勇払原野のハスカップをテーマに開かれたフォーラム

「ハスカップの新たな共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。

「ハスカップの新たな共有と保全を考える」フォーラム「ハスカップの新たな共有と保全を考える」では、植物の研究者らがそれぞれの研究事例を紹介した。